

# 美術と文学の交流 麻生三郎の装幀・挿画展

Book Designs and Illustrations by ASO Saburo

2014年9月27日 [土] —  
2015年1月12日 [月・祝]



1. 麻生三郎『帖面』表紙(3号、6号、8号、22号、33号、35号)  
神奈川県立近代美術館蔵



2. 麻生三郎《太宰治著「人間失格」(『日本文学全集34』河出書房、1968年に所収)のための挿画原画》個人蔵

## 神奈川県立近代美術館 鎌倉別館

〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下2-8-1

Tel. 0467-22-7718 <http://www.moma.pref.kanagawa.jp>

休館日：月曜日(ただし10月13日、11月3日、11月24日、1月12日は開館)、12月29日(月)―1月3日(土)

開館時間：午前9時30分―午後5時(入館は午後4時30分まで)

観覧料：一般250(150)円、20歳未満・学生150(100)円、65歳以上と高校生100円

※( )内は20名以上の団体料金です。

※中学生以下、障害者手帳をお持ちの方は無料です。その他の割引につきましてはお問い合わせください。

※ファミリー・コミュニケーションの日：

毎月第1日曜日(今回は10月5日、11月2日、12月7日、1月4日)は、18歳未満のお子様連れのご家族は、優待料金(65歳以上の方を除く)でご観覧いただけます。

※無料開館日：

11月3日(月・祝)「文化の日」は、神奈川県立近代美術館で開催中の3つの展覧会を無料でご観覧いただけます。

主催：神奈川県立近代美術館

### ■担当学芸員によるギャラリートーク

2014年10月25日(土)、11月22日(土)

各日午後2時より

申込不要、無料

(ただし「麻生三郎の装幀・挿画展」の当日観覧券が必要です)

洋画家・麻生三郎が手がけた装幀や挿画の原画、

書籍、資料などあわせて約500点を展示

### ■お問合せ先

神奈川県立近代美術館 鎌倉 〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下2-1-53

tel. 0467-22-5000 / fax. 0467-23-2464 / e-mail. fm4313.h6g@pref.kanagawa.jp

広報担当：長島、三本松 展覧会担当：長門

美術と文学の交流

## 麻生三郎の装幀・挿画展



3.



4.

洋画家・麻生三郎は、1913年に東京で生まれました。当初はシュルレアリスムなど前衛的な絵画を志向しますが、1938年の渡欧を機にヨーロッパの古典絵画に接すると、リアリズムの重要性についての認識を深め、戦後は一貫して人間の存在を問う絵画作品を描き続けました。

『イタリア紀行』（越後屋書房、1943年）、『絵そして人、時』（中央公論美術出版、1986年）、詩文集『いまのいま』（中央公論美術出版、2004年）を出版するなど、文章家としても知られる麻生は、絵画制作のかたわら、数多くの装幀・挿画も手がけました。とりわけ、1958年から1982年まで発行された季刊雑誌『帖面』では、装幀や挿画ばかりでなく編集にも携わり、小さな冊子のなかに文学や美術に対する真摯さと遊び心をあわせもつ豊かな世界を生み出しました。

本展では、『帖面』のための表紙、カット、デッサンに加え、野間宏著『真空地帯』、椎名麟三著『永遠なる序章』、太宰治著『人間失格』などの小説のために描いた挿画や装幀の原画のほか、『三好十郎作品集』や野間宏著『青年の環』など表紙を飾った書籍、雑誌、資料あわせて約500点を展示し、文学者や編集者たちとの交流によって生まれた麻生三郎の、これまであまり知られてこなかった芸術の一面を紹介いたします。



5.

### 文学者や編集者との交流によって生まれた 麻生三郎の芸術の一側面

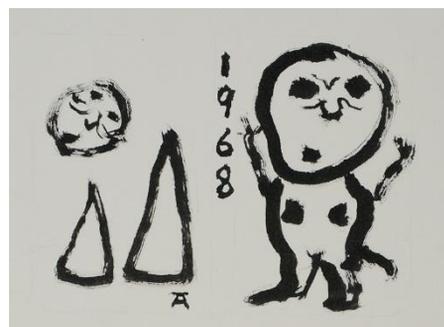
——小さな本の中にひろがるその豊かな世界を紹介

#### 麻生三郎略歴

- 1913年 東京京橋(現・中央区)の老舗炭問屋の三男として生まれる。
- 1930年 明治学院中等部を卒業後、太平洋美術学校選科に入学。
- 1938年 渡欧。横浜港を出発しフランスに滞在。イタリアを旅行して帰国。
- 1943年 『イタリア紀行』を出版。巖光、松本竣介、井上長三郎らと新人画会を結成。
- 1950年 佐々木基一、埴谷雄高ら「近代文学」同人との交友がはじまる。
- 1952年 武蔵野美術学校(現・武蔵野美術大学)で教鞭をとる。(’81年まで)
- 1958年 季刊雑誌『帖面』が創刊され、終刊号まで装幀・挿画などを手がける。
- 1962年 「森芳雄、麻生三郎」展が神奈川県立近代美術館で開催される。
- 1979年 「麻生三郎展」が東京都美術館で開催される。
- 1986年 『絵そして、人、時』を出版。
- 1994年 「麻生三郎展」が神奈川県立近代美術館ほかで開催される。
- 1997年 「麻生三郎デッサン展」が神奈川県立近代美術館 鎌倉別館ほかで開催される。
- 2000年4月5日、死去。



6.



7.

#### 図版キャプション

- 3. 麻生三郎《野間宏著「真空地帯」》(『日本の文学 66』中央公論社、1966年に所収)口絵原画》個人蔵
- 4. 麻生三郎《野間宏著「真空地帯」》(『日本の文学 66』中央公論社、1966年に所収)挿画原画》個人蔵
- 5. 麻生三郎表紙画による三好十郎著作物 個人蔵
- 6. 麻生三郎『『お手帳』1967年カバー原画』個人蔵
- 7. 麻生三郎『『お手帳』1968年カバー原画』個人蔵

## 麻生三郎の装幀・挿画展 会期中の関連プログラム

## ■ワークショップ

## 「愛読書からつくる フランス装仕立てのブックカバーとノート」

「麻生三郎の装幀・挿画展」鑑賞後、ご持参の文庫本から着想を得たデザインで、フランス装風の文庫本カバーを作ります。あわせて中綴じのノートを製本し、同じカバーをかけてフランス装のノートに仕立てます。

講師 もうり あやの 毛利 彩乃氏(造本家)

日時 11月23日(日) 午前10時—午後4時

場所 神奈川県立近代美術館 鎌倉(ワーキングルーム)および鎌倉別館(展示室)

対象 大人(15歳以上)

定員 15名(要申込、先着順)

材料 読了した文庫本を各自一冊持参してください(本に直接加工はしません)。新書・ハードカバー等でなく、一般的な文庫本(A6程度)をお持ちください。その他の材料や道具は当館が用意します。

参加 無料(ただし「麻生三郎の装幀・挿画展」の当日観覧券が必要です)

## ■鎌倉館・鎌倉別館、建築ツアー

日本で最初の公立近代美術館として1951年に開館した鎌倉館は、ル・コルビュジエのもとで学んだ坂倉準三による設計で、代表的な日本のモダニズム建築として世界的に評価されています。また、建築家・大高正人が設計した鎌倉別館は、1984年に開館、今年30周年を迎えます。このたび、建築史家・松隈洋氏を講師に迎え、両館を巡りながら、改めてそれぞれの建物の魅力や美術館建築としての在り方についてお話しいたします。

講師 まつくま ひろし 松隈 洋氏(京都工芸繊維大学教授)

日時 10月12日(日) 午後2時—4時

場所 神奈川県立近代美術館 鎌倉および鎌倉別館

定員 30名(要申込、先着順)

参加 無料(ただし鎌倉館で開催される「コレクションの対話」展の当日観覧券が必要です)



神奈川県立近代美術館 鎌倉



神奈川県立近代美術館 鎌倉別館  
© Norihiro Ueno



撮影:齋藤さだむ

松隈 洋氏 略歴

1957年兵庫県生まれ。1980年京都大学工学部建築学科卒業、前川國男建築設計事務所入所。2000年4月京都工芸繊維大学助教授。2008年10月同教授。現在に至る。工学博士(東京大学)。専門は近代建築史。2013年5月 DOCOMOMO Japan代表。著書に、『ルイス・カーン』、『近代建築を記憶する』、『坂倉準三とはだれか』、『残すべき建築』など。「生誕100年・前川國男建築展」(2005~06年)事務局長、「文化遺産としてのモダニズム建築—DOCOMOMO20選」展(2000年)、同「100選」展(2005年)キュレーションの他に、レーモンド、坂倉準三、ペリアン、白井晟一、丹下健三、村野藤吾など多くの建築展に携わる。文化庁国立近現代建築資料館運営委員。

## ※建築ツアーおよびワークショップの申込方法

参加希望のイベント名、参加者全員の氏名、年齢、代表者の住所、電話番号、FAX番号、メールアドレスをご記入のうえ、FAX(鎌倉館:0467-23-2464)、または神奈川県サイト内の「近代美術館への問い合わせ」フォームからお申し込みください。